

## 保育士の採用と保育士の処遇改善について / 伊禮敬子

保育士の採用及び保育士の処遇改善について伺います。全国的に保育士の担い手不足が叫ばれる中、本村でも保育士が不足しています。募集をしても、なかなか来ないため、現場の課長はじめ職員の皆さんは本当に苦勞されていると思います。

0歳児は保育士の欠員により、実質受け入れができませんので、現段階では4人の待機児童がいるかと思われます。保護者も働くことが難しく、困っている状況が続いています。中には、お子さんを連れて仕事に出勤されている方もいるようです。年長クラスも、保育士の欠員により主任が兼務をしているようですが、そのために職員のサポート体制が思うようにいかずに、十分な休憩がとれていない状況と伺っています。

また、職員が休みをとることができないため、定年退職された保育士さんがボランティアとして働かざるを得ない状況で、協力を続けてくださっています。定年後も働きたいという方もいらっしゃると思いますが、いや応なしに働いている方がいないとは限りません。退職の選択は人それぞれ自由であるべきだと思います。ましてや公立ですので、この状況は一日も早く解決をお願いしたいと思います。

日々のニュースからも、伊平屋村より利便性が良い地域でも保育士が不足している現状が分かります。まずは保育士を確保するために、採用及び処遇改善についての現在の取り組み状況を伺います。

■議長（金城信光） 福祉保健課長。

■新垣晃弘福祉保健課長 伊禮議員の質問にお答えします。伊禮議員ご承知のとおり、全国的に保育士が不足している状況であり、伊平屋村でも例外ではありません。

今年度、当初より0歳児クラスのひよこ組は閉鎖中のため待機児童が発生していることには、保護者や関係者の皆さまにたいへんご迷惑をおかけしているところであります。

さて、保育士、主任業務と合わせて1歳児クラスの担任をしている件ですが、兼務していることで職員のサポートがうまくいっていないというところは、少し違うかなという風に捉えております。おっしゃるとおり、休憩の不足に関しては、職場でも改善がみられてきているということで報告を受けています。また、職員が休みをとることができないため、定年退職された保育士がボランティアとして働かざるを得ない状況とありますが、職員が休みをとるために代替要員としてシフト勤務の調整をしていただいています。また、ボランティアではなく雇用契約もちゃんと結んでいます。伊禮議員がおっしゃるように、退職の選択の自由ももちろんあると思いますが、定年退職後に働く選択の自由もあるのかなと考えています。

保育士の確保において、総務課で職員採用試験の実施や、福祉保健課では沖縄県ふるさとワーキングホリデー事業や福祉人材の移住体験ツアー等の活用や、沖縄県保育士・保育所総合支援センターと連携して、募集や周知を行っています。個別でも、保育士の移住希望者に対して保育所の視察受け入れ等も実施しております。年々、伊平屋での福祉人材等の移住希望の問い合わせは増えてはきていますので、移住される方が今後増えて、福祉人材が増えてくれたらと思っています。以上です。

■議長（金城信光） 休憩します。

再開します。

■3番 伊禮敬子議員 先ほども定住促進の話をさせていただきましたけれども、

働き方改革で多種多様な働き方があり、地方でお仕事をなさる方とか希望されている方とかもいらっしゃいますし、出社しなくてもいい等、伊平屋村でもいらっしゃるかとは思いますが。やっぱりそういう方たちの中でも、自然豊かな環境の中で子育て支援の充実した自治体を考えていらっしゃる方々も、そういう自治体を希望されている方々もいらっしゃると思います。

この子育て支援の充実は、やっぱり定住促進の柱になっているかと思しますので、課を超えて、全課でこの保育士の問題は取り組んでいただきたいと思います。現場からの切実な声と、保護者の方からの切実な声がありますので、ぜひ課を超えて取り組んでいただきたいと思います。よろしく申し上げます。以上で、私の質疑を終わります。